

# 花うさぎの「世界は腹黒い」

日本が普通の国になるように。  
産経新聞を応援しています。

政府、外国人地方参政権を断念！？

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/1711387/>)

山谷えり子議員の質問趣意書に回答

最高裁本論の違憲判決を尊重、  
「政府も同様の立場」と閣議決定！

<http://twitter.com/#!/hanausagifan>

(2010/07/23) 1/1

民主党結党以来の「悲願」とされ、その成立に執念を燃やし続けてきた外国人地方参政権だが、政府は6月4日、事実上これを断念する閣議決定を行っていた事が明らかになった。これは5月27日に自民党参議院議員の山谷えり子氏が提出した質問趣意書に対する答文書の中で明言したものだ。

このほど発売された週刊新潮(7月29日号)で櫻井よしこ氏が連載しているコラム「日本ルネサンス」がこの事実を指摘した。当時は6月2日に鳩山首相が小沢幹事長と抱き合わせで辞意表明、6月4日の民主党両院議員総会で菅直人氏の党代表が決まったといういわゆる政権移行にともなう空白期に当たっていた。

それでも首相、全閣僚が署名した閣議決定の意味は重く、この法案の早期成立を求めてきた在日、民団、韓国政府は意表を突かれた格好。一方で、この法案成立阻止にむけて粘り強い反対運動を続けていた保守勢力にとっては予定外の特大的ボーナスが支給されたも同然で、中には「信じられない!」とその本意を疑問視する声もあがっている(ニュース調こまで)。

いや～、私も驚きました。というわけで山谷えり子議員のHPを訪ねたらその記述がありました。参議院のHPでも確認しましたが間違いなくあります。まずは櫻井女史が伝えたレポートの前半部分をどうぞ。全文は是非週刊新潮を購入の上で精読して下さい。

外国人参政権の  
質問趣意書と閣議決定  
された政府答弁を  
掲載している  
山谷えり子さんのHP  
(画像クリックでHPへ)



政府は外国人参政権を諦めていた

民主党政権が永住外国人への参政権付与問題について極めて重要な閣議決定を行っていた。従来、民主党議員の半数近くが熱心だった外国人参政権推進の立場をきっぱりと否定して、参政権は認めないとの立場を、6月4日の閣議で、公式に打ち出していたのだ。

これは、自民党の山谷えり子参院議員が5月27日に提出した質問主意書に対する政府答弁に書き込まれた内容だ。閣議決定は政府決定として最も重い意味を持つ。全閣僚の署名を以て成立するもので、菅直人、千葉景子、岡田克也各氏も、無論、署名した。

答弁書は95年2月28日の最高裁判決の本論を引用してざっと次のように書かれている。

「主権が『日本国民』に存するものとする憲法前文及び一条の規定に照らせば、国民とは、日本国民すなわち我が国の国籍を有する者を意味することは明らかである。とすれば、公務員を選定罷免する権利は、日本国民のみをその対象とし、我が国に在留する外国人には及ばないものと解するのが相当である」

日本国民は日本国籍を有する日本人であり、公務員を選定罷免する権利すなわち選挙権は日本国民のみにあり、外国人には与えられないと、明言している。地方参政権についても、最高裁判決の本論を引用して、次のように書かれている。

「地方公共団体の長、その議会の議員及び法律の定めるその他の吏員は、その地方公共団体の住民が直接これを選挙する。『住民』とは、地方公共団体の区域内に住所を有する日本国民

民を意味するものと解するのが相当であり、我が国に在留する外国人に対して、地方公共団体の長、その議会の議員等の選挙の権利を保障したものとすることはできない」

答弁書はこのように最高裁判決の本論を引用して「政府も同様に考えている」と結ばれている。



傍論部分を切り捨てた

最高裁判決には、今回民主党が引用した本論に加えて、「地方公共団体の長、その議会の議員等に対する選挙権を付与する措置を講ずることは、憲法上禁止されているものではないと解するのが相当」などとする傍論が書き込まれ、それが外国人参政権推進論の根拠とされてきた。だからこそ、今回政府答弁書がその傍論部分を切り捨てたことが重要な意味を持つのだ。

傍論の作成に携わった最高裁元判事園部逸夫氏は、判決から15年後の今年、「戦前戦中派の裁判官は、在日韓国・朝鮮人に対する想い」や「彼らが戦時中に強制連行されたという特殊な事情への考慮」を共有するとし、それ故に傍論を加えたと語った。

園部氏の、在日の人々は戦前戦中に強制連行されてきたとの認識は事実関係において間違っている。にも拘らず、傍論は、国内の在日勢力及び韓国政府に参政権への希望を持たせる結果となった。

一方、党内で意見が二分されたままの民主党では、小沢一郎氏が韓国で公約ともとれる発言をし、党内の反対論を封じ込めるために内閣提出の閣法としてこの問題を扱う方針を示した。閣法であれば、党所属議員は全員賛成しなければならないとの論法で、可決を目指そうとしたのだ。(以下略)

ついに「正義は勝った!」のか?

というわけで、外国人参政権反対でさまざまな抗議行動を続けてこられた皆さん、我々の努力は報われました。正義の声の大きさに、ついに邪悪な意図は粉碎されたのです。ここは万歳三唱でいききたいと思います。「万歳!万歳!万歳!」

これをしつこく求めてきた在日、民団、韓国の皆さん、そして朝日、毎日などの反日マスコミの皆さん、残念でしたね～(内緒で「ざまあみろ!」で～す)。

さて、実は大きな不安が消せないのも確かなのです。現在の菅直人政権は、この答弁書決定以降に発足しましたが、その後の発言をチェックしてみると、この「閣議決定」を忘れたのか、あるいは「閣議決定」の意味がわからないかのような発言が今もなおも続いているのです。

- ・菅首相「民主党は前から(外国人参政権の)実現に拘わってきた。その姿勢に変化はない」(6月16日の参議院本会議)
- ・千葉法相「マニフェストに載っていない、あるいはテーマになっていないことが特段問題になることはない」

自分で閣議決定に署名しておきながら、なおもこの発言。なにやらシンガンス釈放署名の時のような安易さ、ルーズさを感じさせますね。閣議決定の意味が全然理解できていないようですよ?民主党の閣僚は、だれか、この素人集団に政治の基本、イロハをレクチャーしてやって下さい、お願いします。



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画

☆マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見! ☆  
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」  
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに…」

わからない事は  
調べましょう!

検索

izaブログ最高ランキング  
【全体】2位 【政治】1位  
(2011年12月30日)

\*花うさぎ氏は2011年12月27日永眠されました。日本を想う数多くのエントリーを遺して下さった事に心から感謝致します。